

『神はそれを良き計らいに』(創世記 50 章 15-21 節) 2021.7.11.

<はじめに> 他人から迷惑・損失を掛けられたり、悪意・謀略にはめられたり、人の世には悲劇・悲慘が多くあります。そのような場面を私たちはどのように受け留め、消化し、乗り越えていますか。聖書の登場人物の物語から私たちは学ぶことができます。今日は創世記のヨセフを取り上げます。

I ヨセフと兄弟の物語

① 夢見る少年(37 章)

族長ヤコブは最愛の妻ラケルの忘れ形見ヨセフに寵愛を注ぎました。ヨセフの生意気な態度と夢の話に、異母兄 10 人は彼を妬み憎みます。その後、荒野で牧す兄たちを訪ねたヨセフを彼らは隊商に売り、ヨセフはエジプト王の侍従長に売られ、仕えます(17 歳)。

② 一人エジプトで(39-41 章)

ヨセフは主人の信頼を得ますが、主人の妻の誘惑を拒み、投獄されます。そこに王の側近も投獄され、ヨセフは彼らの夢を解き明かします。2 年後、エジプト王が見た夢の解き明かしにヨセフが召し出され、王は彼を首相に任じて、国の運営を任せます(30 歳)。

③ エジプトでの再会(42-47 章)

王の夢は 7 年の豊作、続く 7 年の大飢饉を示し、ヨセフは来たる飢饉に備えます。ヤコブ一族も飢饉に見舞われ、食糧調達に息子たちをエジプトに送ります。その応対を通じて兄たちの心の変化を知ったヨセフは正体を明かし、父一族をエジプトに迎えます(39 歳)。

II 悪しきはかりごとの中で

① 40 年目の安らぎ(15-21)

父ヤコブ亡き後、兄たちは過去の悪行にヨセフが仕返しを企てる不安に駆られ、父の言葉を添えてヨセフに赦しを乞います(15-18)。ヨセフが彼らに優しく語り掛け、安心させます(19-21)。長らく悪に悩み苦しんだ者すべてがこう言えるわけではありません(56 歳)。

② 悪意と悪行

兄たちは父に寵愛されるヨセフを妬み、彼の言動に苛立ち憎み、それはやがて殺意へと膨らみます。殺害は踏みとどまりましたが、冷酷に扱い、放逐し、生きているとは思っていません(ヤコブ 1:15)。しかし、彼らはこれらのことは忘れ去ることはできません(42:21-22)。

③ 翻弄された人生

ヨセフは突然家族から引き離されて、一人異国で不自由な立場に置かれ、誤解・忘却・理不尽の中を歩みました。兄たちの悪意・悪行がなければ、受けずに済んだ事ばかりです。恨み、仕返しもできたでしょう。しかし、彼はそうしませんでした(45:5-8)。

III 神が主語の証し(19-21)

① 神がともにおられる(39:2-6、20-23)

患難・試練の中で、ヨセフは共におられる神に目を向けていました。抗えない荒波に呑み込まれる時にも、神は見捨てず、見放されません。すべてをご存じで、ご自分を信頼する者を覚え、その計画を着実に進められます。そう見えないときにも、神を信じていますか。

② 神は変えられる(45:5-8)

人の悪意・悪行さえ、神の足元、御手の中にあり、それをを用いて御意を実現されるから、信頼すべき偉大な御方なのです。この力強い御方に触れるなら、目の前で起きていることに一喜一憂することはありません。身近なところで働かれる神を見つけていますか。

③ 神は先を進む(45:5-8)

憎い弟を無き者にする計画が、彼ら自身を生かす布石になりました。背きと罪に気付いたとき、神のように断罪してはなりません。神はいのちの源、生かす御方です。その罪を赦し贖い、聖めて用い、栄光を現すのが、神の定石です。赦される道は先備えされています。

<おわりに> 人の世には様々な思惑と計画がうごめき、せめぎ合い、悩ませます。しかし、神はそれらの上におられ、人の悪さ善に変えて、御意を実現される力ある方です。ヨセフや聖徒たち、イエス・キリストの生涯のように、私たちの歩みにもそれを見出せますように。(H.M.)